

ご挨拶

渡部 和彦

我が国は、現在、コロナ禍の真ただ中にあります。今回の広大マスターズ総会は、異例の書面での審議となりました。新しく入会された皆様、高垣市長様、越智学長様はじめ会員の皆様方と親しく語り合い、ご挨拶をと願っていましたので、誠に残念です。

さて、小生は、この度代表幹事を退き、谷本能文先生に引き継いでいただくことになりました。初代代表幹事、金田晋先生の後任として、2012年6月に代表幹事をお引き受けして以来、長期間にわたり、多くの皆様方の暖かいご支援・ご協力のおかげで、今日まで何とか務めさせていただきました。心から感謝申し上げます。

2006年12月にスタートした広大マスターズは、①会員の交流、②広大との連携・協力、③自主的活動、④地域との連携の4領域の柱を立て、活発な社会貢献活動を行い、それが認められ、広島大学長表彰を受賞しました(2011年11月)。

代表幹事を引き継ぐにあたり、我々広大マスターズが、目指すべき方向を論議して見えたことは、「広大マスターズ」の存在とその活動を一般市民にも知っていただくことでした。そこで、「地域と共に、学びの場を拓く」の目標を掲げ、いくつかの新企画に、挑戦しました。幹事はじめ、市内・外のご協力のおかげで、新企画を前に進めることができました。

地元紙「プレスネット社」には、「学びの窓」に続き、FM東広島との共同で、「学びの時間」が企画され、会員の専門領域を市民に丁寧に解説する連載が実現しました。また、牟田泰三先生の発案で、カモンケーブルTVの協力で市民向け「学術講座」も開設しました。

10周年記念事業では、会場設備等で市教委の多大なご支援がありました。記念行事の、「市民フォーラム：東広島の近未来を語ろう」では、市民が直面する課題を取り上げました。前回は、「東広島の景観と文化遺産を考えよう：西条酒蔵通りから一日本の20世紀遺産20選認定(ICOMOS)を記念してー(2019年1月23日)」。

続いて、「国際化する東広島：市民と留学生・外国人市民との交流(2020年2月8日)」も、大勢の市民参加を得ました。回を重ねる度に企画内容が充実し、「広大マスターズ」の「知名度」を高める狙いは、徐々にではあるが、手ごたえを感じます。これも、幹事・会員各位および市役所はじめ、市内・外のご関係の皆様方のご協力の賜物であります。誠にありがとうございました。

結びに、新体制、谷本能文代表幹事のもと、広大マスターズ会員のご健勝と会員の盛んな交流を願い、合わせて、更なる社会貢献活動の発展に協力したいと願っています。

ありがとうございました。

令和2年5月吉日